自彊前進

題字　西村直子

NO. 16　令和５年７月20日（木）
新潟大学附属新潟中学校　学校だより
文責　教頭

※　自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
（校歌３番の文言から）

一通の手紙

先日、地域の方から次のような丁寧なお手紙をいただきました。

本日までは空梅雨で、ややお暑い日が続いています。平素より大変お世話になって居ります。６月１３日（火）金衛町が１２：１１発で、中学校前１２：２０頃の駅ゆきのバスで、７～８人（男女半々位）ご乗車されました。

３人の男の子が迷わず優先席に座られ、神宮前でご年配のお２人、南浜通で８０代の女性が乗車されましたが、３人のうち１人として席を立たれませんでした。

私も古町ですぐ降りましたので、その後譲ったかは判りません。

大人もマナーの悪い人がおり、二人掛けの真ん中に陣取って、混み合ってきても、スマホに見入ったまま知らないフリの人が少なくなく、「僕たちだけじゃない」という風潮と思われますが、反対にやはり、新大附属中、小の学生さんは、中学生でも「優秀で且つ思いやりもある」とバス乗客に感心される様な振る舞いをして頂きたく、生活指導の先生へお届けさせていただきます。

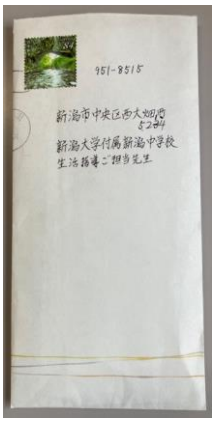
又、夏休みになりますと、ご自身は窓側、スポーツバックは通路側座席にどん、と置かれているお子さんが多く、なるべく膝の上、４，５人で乗車してもバスの中では極力静かに（マスクなしで可になりましたので）ご指導をお願い申し上げます。

末筆にて失礼とは存じますが、向暑の折、先生、生徒の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

ご多忙と存じ上げます。お返事は全くお気になさらないで下さい。

令和５年６月２４日

（差出人様のお名前）



差出人のお名前、住所も明記された本当に丁寧なお手紙をいただきました。当校生徒のことを思ってくださっていることが文面から伝わり、感謝しかありません。生徒朝会で、生活指導部長の大野晋太郎さんがこの手紙を読み上げ、彼のこのままではいけない、という言葉から、手紙をくださった方の思いに応えるために、私たち一人ひとりに何ができるのか、学校全体として考える必要があると思いました。

附中生のバスマナーについては、昨年度も地域の方から苦情をいただきました。これを受け、全校で「誰の空間？」という道徳の授業を行いました。附中生は、公立校の生徒とは異なり、家にいるときと同じ服装、持ち物を身に付けているからこそ、公私の境目がはっきりとしていない状況にあります。公立校のような校則といわれるものがほとんど無く、その分「自由」に感じられるかもしれませんが、むしろ、「自制」心が求められているのです。

附中生にとっての校則は、「生活の心得」に記載されています。生徒会憲章では、「生活の心得」は「自由」「信頼関係」「精一杯の努力」を３本柱とし、「その時の状況や自分の立場を自覚した上で判断し、自分の行動に責任を持つ」と記されています。

本日配布された父母教師会生徒育成委員会の「ひまわり通信」に、先日の街頭視察の様子が報告されていました。バス車内での気持ちのいい挨拶やマナーを守った行動をしている生徒がいる反面、携帯のゲームに興じる姿や校外で音楽を聴いたり、買い食いしたりする生徒がいるなど、「自制」できていない姿もあるようです。残念なことです。

みなさん一人一人の行動が附属中学校のイメージをつくり上げます。お手紙をいただいた方のおっしゃるように、「さすが附中生」と感心される存在であってほしい、心からそう願っています。